２０１４年度　立教 SFR 国際会議助成成果報告書（Ａ，Ⓑ，Ｃ）

１．　会議概要

会　議　名	和文	第一回国際通訳史シンポジウム
	欧文	The First International Symposium on the History of Interpreting
主　　催	異文化コミュニケーション研究科	
共　　催	異文化コミュニケーション学部、Alphaqueque (University of Salamanca)	
後　　援	日本通訳翻訳学会	
開催責任者	所属　異文化コミュニケーション学部・研究科 氏名　武田珂代子　印	
運営事務局	事務担当者 氏名　武田珂代子	
開催期間	2014　年　5　月　24　日　から　2014　年　5　月　25　日まで	
開催場所	立教大学太刀川記念館３階多目的ホール	
参加者数※１	学内　2　名 学外　国内から招聘　名　海外から招聘　6　名　4　ヵ国 合計　8　名　5　ヵ国	
公開講演会等参加者数※２	①　2014　年　5　月　24～25　日　115　名　3　ヵ国 ②　年　月　日　名　ヵ国	

開催日程		午前	午後	夜
	第１日 5 月 24 日	開会式、パネリスト紹介 基調発表とディスカッション１（通訳史研究へのアプローチ）	基調発表とディスカッション２（外交、植民統治における通訳）	懇親会
	第２日 5 月 25 日	基調発表とディスカッション３（戦争、占領期の通訳）	基調発表とディスカッション４（通訳史の研究方法） 総括	
	第３日 月　日			

※3					
	開催経費総額（C）	予算額	1,836.4 千円	執行額	1,399.179 千円
	助成申請外資金総額（B）	予算額	千円	執行額	千円
	SFR 助成額（A）	予算額	1,836.4 千円	執行額	1,399.179 千円

※1　参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテイター等の活動を伴う者をいう。
※2　一般公開された講演会等に聴講の為に参加した者。講演者、パネラー等は除く。参加者名簿を添付すること。
※3　(A)(B)(C)の金額は、様式５の金額と合わせること。

２．　開催趣旨概要

翻訳通訳の歴史研究においては、これまで通訳よりも翻訳、また特定の地域、時代、事件に焦点を当てた個別の研究が多かった。本シンポジウムでは、欧米・アジア各地から通訳翻訳研究者と歴史学者が集い、外交・通商・植民統治・戦争・占領などのコンテクストにおける通訳の歴史について多様な視点や研究成果を共有し、議論することを目的とする。翻訳と異なり訳出物がテクストという形で残らない通訳、また可視性が低いとされる通訳者の歴史を研究する上での困難をどう乗り越えるかなど、研究方法論を主要な議題の一つとする。歴史における異文化コミュニケーションの仲介役として重要な役割を果たしてきた通訳者の研究を共有することで、広範な学問分野に貢献するとともに、過去の通訳現象や通訳者についての研究から浮かび上がる今日的課題や現代社会における通訳者の状況との関連性を探ることを目指す。本シンポジウム中に、「写真で見る過去 100 年の通訳者たち」と題する写真展も開催する。

３．　国際会議の成果概要・今後の展望等

本シンポジウムの主な成果は以下の通りである。第一に、欧米・アジア各地の研究者による研究発表をもとに、さまざまな地域や文化における歴史上の通訳者の背景や社会的役割などを比較分析し、通訳をめぐる今日的課題との関連性について考察する機会となった。特に、戦争・紛争・占領地における通訳者の「中立性」「倫理」「リスク」について、刺激的な議論が展開されたことは大きな収穫だった。第二に、通訳史研究における方法論や理論的枠組みについて多様な視点から検討できた。特に、歴史学の専門家が、翻訳通訳学に足場を置く研究者と学際的な議論を交わすことで、史料の取り扱い、写真やオーラルヒストリーの使用、また、「リスク管理」の枠組みで通訳事象を解釈するという革新的アプローチについて活発な意見交換ができた。最後に、平行して開催した「写真で見る過去 100 年の通訳者たち」写真展で、資料の翻訳作業を担当した立教の学生にとっては、サービスラーニングの貴重な経験になったと考える。さらに、学内外から 115 名の参加者を得たことで、通訳史また通訳研究一般に対する関心の高さを確認できた。

発表者全員が事前にドラフトペーパーを提出し、互いのペーパーを読み込んでコメントを準備しておいたので、重要課題に焦点をおいた深い議論ができ、充実感に満ちた会議になったことも記しておきたい。

本シンポジムのダイジェスト版ビデオ、写真、さらに立教の学生チームが翻訳した写真展資料は、科研費の援助により武田が主宰する「翻訳通訳教育研究会」のウェブサイトに掲載している。本シンポジウムの後、通訳研究分野で最も重要な国際学術雑誌のひとつである *Interpreting* 誌編集長から本シンポジウムをもとにした同誌特別号の刊行、また Baigorri と武田がその編集担当者となることが提案された。現在、2015 年８月の刊行を目指し、Baigorri と武田が guest editors として特別号の編集作業を進めている。また、2017 年までには、同誌の出版社である John Benjamins Publishing (Amsterdam & Philadelphia) から、特別号を転載した書籍が刊行される予定となっている。また、本シンポジウムに対する国際的な関心を反映してか、オーストラリアのモナシュ大学から第２回国際通訳史シンポジウム開催の申し出があった。同大学の歴史研究者と通訳研究者が中心となり、2015 年６月に、戦争・紛争に焦点を当てた通訳史の国際会議開催が予定されている。その準備に関し、立教における第１回シンポジウムでの経験をもとに、武田が情報や助言を提供中である。

４．会議の構成

（１） 学内参加者

氏　　名	所属・職名	会議における活動	内　訳（学部・研究科））
武田珂代子 鳥飼玖美子 坪井睦子	異文化コミュニケーション研究科・教授 異文化コミュニケーション研究科・特任教授 異文化コミュニケーション研究科・特任准教授	開催責任者、基調発表、コメンテーター 基調発表、コメンテーター 会議運営	異文化コミュニケーション研究科　３名 名 名 名 名 名 その他（　　） 計　３　名
変更内容（氏名、不参加／追加の別）			

（２） 学外参加者（国内、国外）

氏　　名	国名・所属・職名	会議における活動	内　訳
Anthony Pym Jesús Baigorri Jalón Icíar Alonso Araguás David Sawyer Mike Shi-chi Lan Rachel Lung	スペイン、ロビラ・イ・ビルジリ大学、教授 スペイン、サラマンカ大学、准教授 スペイン、サラマンカ大学、講師 米国、メリーランド大学、通訳翻訳プログラムディレクター 台湾、中正大学、准教授 香港、嶺南大学、準教授	モデレーター、コメンテーター モデレーター、基調発表、コメンテーター 基調発表、コメンテーター 基調発表、コメンテーター 基調発表、コメンテーター 基調発表、コメンテーター	国名　人数 スペイン　３名 米国　１名 台湾　１名 香港　１名 計　４　ヵ国　６　名
変更内容（氏名、不参加／追加の別） Gertrudis Payàs Puigarnasu 不参加 Paul Cohen 不参加 David Sawyer 追加			